

健康増進対策の強化を

藤元 雅文 議員

糖尿病死亡率が全国トップ。肥満者の割合は全国五位。野菜摂取量は男性最下位、女性ワースト二位。徳島県人の食生活を含めた生活習慣に問題のあることが推察されるデータです。

自分は健康だと思っている人も含めて、自身の身体の状態を知ってもらうために、まず健診を受けることが大事ですが、その取り組み状況は。

健康づくりに一歩踏出す切っ掛けづくりが行政には求められています。ウォーキングは足腰の衰えを防止、費用もかからず手軽に始められ、歩くことが少なくなっている本町のみならずには最適な運動ではないでしょうか。大会、イベントの計画は。

長く続いた生活習慣は、なかなか変えられないので、幼少期の生活習慣や教育が

大切で。保育所、学校での取り組み状況は。

行政が健康づくりの先頭に立つ決意を込めて「健康づくりの町」宣言をしてはどうか。

町長

健康増進策として、生活習慣病予防のための特定健診、各種がん検診、妊娠期の健康診査、乳幼児健診を実施しています。そして、これらの健診結果に基づき保健指導、健康相談、健康教育などを行い健診後のフォロー体制の充実、健康管理意識の高揚、自分の健康は自分で守るという自主的な健康づくりの意識付け及び切っ掛けづくりを行っています。

健診については、がんや生活習慣病の早期発見と食生活の見直しや適切な運動への取り組みを促す上で大

変重要ですので各種広報、健康教育、健康相談及び訪問等の機会を利用して受診者の増加に努めています。

避難路を利用したウォーキングコースだけではなく、景観の良い所にもコースを設置して大会もやりたいと思っていますが、まだそこまで計画が進んでいないのが現状です。

宣言は、実績と将来計画も必要です。機会を捉え実行に移したいと考えます。

教育長

学校においては、発達段階に応じて食育全体計画を作成しており授業の中では運動習慣づくり、睡眠の大切さや生活リズムのつくり方、ストレスを和らげる生活習慣と病気の係わり等についての指導を行い、自分の健康は自分で守るという意識の高揚を図っています。子どもたちの発育状況は、県平均に比べ上回っている項目や下回っている項目が

ありますが、全体的には大きな課題はないという結果になっています。

健康生活課長

特定健診の受診率は毎年低下傾向です。

本年は、集団検診を七月、八月、九月の三回実施予定です。町内三病院でも七月より十二月二十五日までの期間実施予定です。また、国民健康保険加入者で四十五歳、五十歳、五十五歳、六十歳、六十五歳、七十歳の方には今年度より無料で受診できるようにしました。さらに、午前七時三十分から十時三十分までの早い時間帯を設定して、受診者の増加を目指しています。

保育所長

乳幼児期には排泄、食事、睡眠など基本的な生活習慣が自立できるように毎日の保育の中で指導を行っています。特に健康増進に大切な食育については栄養士による栄養管理、ヘルスマイト、保健師等による食育指導、保護者への毎月の献立表配



特定健診(海の総合文化センター)